

禅心理学の成立*

加藤 博己

The beginning of Zen Psychology

Hiroki Kato(Department of Psychology, Komazawa University)

KEYWORDS: Zen psychology, Zen, Komazawa, Japan

駒沢大学における心理学の歴史は、1968年に大学院人文科学研究科に心理学専攻修士課程が設置され、同時に教員組織としての心理学研究室が併置され、初代主任教授秋重義治(1904～1979年)が就任したことに始まる。それ以前に、『禅者の自性及び獲信の研究』(1920a)や『禅の心理的研究』(1920b)を著した入谷智定が、1932年に駒沢大学教授として来ているが、入谷は学科・研究室設立以前の心理学担当教員であった。秋重は、駒沢大学に赴任前は、九州大学心理学研究室主任教授であり、知覚の恒常性研究から、次第に禅、とりわけ、道元禅に多大なる関心を寄せるようになった。そして、九州大学定年を機に、道元禅師を祖とする曹洞宗(禅宗には、日本では臨済宗、曹洞宗、黄檗宗という主要な3つの宗派がある)の流れを汲む駒沢大学に着任し、大学院心理学専攻、並びに、社会学科心理学コース(1969年発足)の設置に貢献した。秋重の着任した駒沢大学では、心理学教員スタッフ一同、ならびに、心理学専攻大学院生の全員が禅心理学研究に携わった。これは、文部省科学研究費による8大学総合研究「禅の医学的・心理学的研究」(代表者、佐久間鼎,1962,1964)という、世界初の「禅」の大規模な科学的共同研究が始まった直後のことであり、禅の心理学的研究を組織的に、継続的に行うという意味で、非常に意義深いことであった。30年経った現在の駒沢大学では、教員スタッフや大学院生の研究対象は、一般的な心理学分野が中心となっており、禅心理学研究に携わる教員、学生は極めて少なくなっているが、世界的にも例をみない「禅心理学」という講義が学部3年次に必修科目として、また、「禅心理学研究」という講義が大学院に選択科目として、今でも開講されている。

上述を踏まえて、本論文では、日本における「禅心理学」の成立について、以下の3つの章を立てて論じた。まず、第1に、I「禅心理学」の始まり、において、この分野の研究の起りを示した。続く、II「禅心理学」の展開、において、「禅心理学」の名称の由来や、禅心理学に関連する基本的事項について、駒沢大学を中心に主として文献から論じた。最後に、III禅心理学の時代区分、において、禅心理学の歴史を4つの時代に大別し、簡単な現況を述べた。

I 「禅心理学」の始まり

「禅心理学」という言葉は、仏教の一宗派である禅宗の「禅」と「心理学」とを結びつけた造語である。この「禅心理学」という語は、1968年に駒沢大学大学院心理学専攻において、「禅心理学特講」(榎林皓堂担当)という開講科目において使用されたのが、恐らく最初ではないかと推測される。その後、1978年の日本心理学会第42回大会発表において、駒沢大学による一連の研究のサブタイトル「禅心理学的研究」が冠されて以来、大々的に使用されるようになったものと思われる。では、なに故に「禅」と「心理学」という言葉が結びつき、このような心理学の一分野が成立したのであろうか。

* 本稿作成にあたり、本学名誉教授中村昭之先生に多大なるご助言を頂きました。付して感謝申し上げます。

日本における実験的な心理学は、言うまでもなく東京帝国大学教授であった元良勇次郎と、それに続く松本亦太郎らによって築かれたのであるが、元良が、禅を科学的に捉え、心理学の対象としようと試みた最初の人ということができるかも知れない。その理由は、1905年に、ローマにおける第7回万国(国際)心理学会において、元良は「東洋哲学に於ける自我の観念」という発表を行っており、その中で、「仏教特に禅宗に於ける自我の観念」や「禅的経験の科学的説明」について論じているからである。また、松本は前述の入谷の「禅の心理的研究」(1920b)に序文を付しており、日本の心理学の始祖たる元良、松本の両者とも「禅」に関心を向けていた節がある。さらに古くは、東洋大学の前身である哲学館を創設した井上円了が、「禅宗の心理」という著述を『甬水論集』(1901)なるものの中に著しているが、『甬水論集』は、心理学というよりは、哲学論文の感がある。

入谷は、「禅」についての科学的・心理学的考察にとどまらず、実際に、質問紙法という心理学的研究方法を用いて「禅」を探求した最初の人ということができる。入谷は、以下のような4つの方法により、総合的に禅の悟道見性を中心とした精神的諸過程、並びに、その後の心身の変化等を研究した。

1. 発問書(アンケート)による。
2. 禅客十数名を訪問して、その経験を聞くことによる。
3. 法語、語録、禅話等より抜粋することによる。
4. 自ら禅堂に入って実地を見学することによる。

元良や入谷の後、東北帝国大学千葉胤成による「固有意識について」(1928)という東洋思想の心理学的研究発表がなされ、1930年代に入ると九州大学安宅孝治の「禅の心理」(1934)や京城帝国大学黒田亮の「勘の研究」(1933)、「禅の社会心理学的考察」(1935)、「禅の心理学」(1937)といった、「禅」を心理学の研究対象とする試みが増加した。

安宅は、その後、「禅の心理-第三報告」(1953)において、「禅に於いて心理学的に明らかにせねばならぬ点は、最も根源的なるものを悟るに至る心理的過程と、根源的なるものを悟った後の心理的状态である」と述べ、約30年間に渡り、専ら悟道の心理的過程と、悟得後の心理的状态等の解釈に努めた(1934,1953,1957,1961,1964,1965)。

一般に、「禅の心理学的研究」といった場合に、「禅の心理」学と「禅」の心理学との区別が明確にされないことがあるが、黒田は、「心理」と「心理学」という言葉を区別して用いた。「禅の心理学」(1937)では、黒田は「元来禅を心理学的に研究するには、二つの方面がある。一は文献的研究であり、他は実験的研究である」と述べている。質問紙法によって統計的に研究する方法を文献的研究の範疇に収めているように、研究方法自体は現在の心理学のそれと若干異なる所が見受けられるが、それ程大きな隔たりはない。実験的研究は、「被験者に数息観を行じさせ、坐中種々なる刺激を与え、その際に於ける身体的表出、すなわち、主として呼吸運動および全身運動を記録し、傍ら彼等の内省報告を求める」というものである。実際には、教室の助手であった大塚鑑が行った実験が、「禅」の実験心理学的研究の最初ということができよう。後に、「坐禅に関する一実験的寄与」(未刊)と題して公表する予定であったようだが、公刊が確認されていない。

一方、黒田が「禅の心理学」の後に著した「禅の心理」(1941)は、心理学的方法を用いた研究内容ではなく、禅の第一義の心理的解釈を行った著作である。黒田は禅に関する大系的な著述を執筆の予定であったが、ついに公刊されることはなかった。

1940年代は、1930年代同様、東洋思想、あるいは、禅に対して、心理学者がどのようなアプローチで研究できるか思案された時期である。東洋思想研究としては、京都大学佐藤幸治「氣の人間技術学」(1944)、黒田亮「唯識心理学」(1944)などが著された。また、禅の研究としては、黒田亮「禅の心理」(1941)や、九州帝国大学佐久間鼎「神秘的体験の科学」(1948)などがある。佐久間は、その中で脳波による禅の科学的研究の可能性を以下のように

に示唆した。「ここに唯近来盛んに研究されている人間の脳皮質の電位変化が、比較的に刺激から脱した条件下で、眼を閉じて心的ならびに体的に平静な状態にあつてしかも眠に入っていない場合に、基準的なエレクトロ・エンケファログラム(脳波)のアルファ波を提供することを想起して、黙照体験の心理状態に類するこの場合の底流的生理過程の定常的な姿を示唆するにとどめよう」。これは、上述の黒田(1937)が述べた大塚(未刊)の研究に影響を受けた発言であろう。

1950年代には、佐藤幸治が心理学研究に「禅と心理学」(1959)という展望論文を著し、それまでの国内外での「禅」と「心理学」との関係の研究が要約された。また、将来の研究課題を6点挙げ、禅の心理学的研究の指針を示した。この時代までは、「禅」の心理学的研究というよりは、むしろ「禅の心理」の学問的研究とも呼ぶべき禅心理学模索期間であった。

1960年代に入ると、文部省の研究費申請をした東京大学笠松章、平井富雄が、坐禅時の脳波を測定するという画期的な実験的研究を試みた(1960)。それを契機に、前述の文部省科学研究費による8大学総合研究「禅の医学的・心理学的研究」(代表者、佐久間鼎、1962,1964)が行われ、「禅」の心理学的研究が本格的に始まった。

そして、この8大学総合研究以降、生理的指標を用いての禅、特に坐禅中の姿勢を測定した医学的・心理学的(生理学的)研究が盛んになり、禅の心理学的研究の中心対象が、「禅の悟りに至る心理的過程と悟った後の心理的状态」等の解釈から、禅者の坐禅時における心身の変化に移っていった。

この禅の心理学的研究の対象の変遷は、以下のように論文のタイトルにそのまま現われている。「禅の心理的研究」(入谷,1920)、「禅の心理」(安宅,1934,1953;黒田,1941)、「禅と心理」,「禅と心理学」(佐藤,1959)、「禅の心理学」(黒田 1937;秋重,1973)、「禅に関する心理学的研究」(恩田,1962)、「坐禅の心理学的研究」(神戸,1962)等がそれである。

II 「禅心理学」の展開

ここでは、主として出版物を通して、禅心理学研究がどのように展開されていったのかを、特に、駒沢大学に重点を置いてみる。

前述の8大学総合研究以降、急速に禅の実験心理学的研究が増加したのであるが、その成果の多くは、学会発表という形式で公にされた。8大学総合研究の成果は、まず、日本学術振興会による、わずか数頁の「文部省科学研究費による研究報告集録 人文編」に収められた。8大学名と代表者名は以下の通りである。

1.東京教育大学	杉 靖三郎
2.名古屋大学	高木 健太郎
3.九州大学	秋重 義治
4.京都大学	佐藤 幸治
5.東京大学	笠松 章
6.京都大学	片岡 仁志
7.東京慈恵会医科大学	高良 武久
8.東洋大学	佐久間 鼎

これら8大学総合研究は、主に以下の学会発表・紀要・学術雑誌等で公表された²⁾。以下の1~8の番号は、上記8大学に対応した番号で、それぞれの大学の研究成果を意味する。

1. Sugi,Y.,&Akutsu,K. 1964 On the respiration and respiration change in Zen practice.Japanese

Journal of Physiology,26,72-73.

Sugi,Y., & Akutsu,K. 1968 Studies on respiration and energy-metabolism during sitting in Zazen. *Research Journal of Physical Education*,12,190-206.

杉靖三郎・阿久津邦男 1974 坐禅の呼吸生理学的研究-坐禅時の呼吸およびガス代謝を中心に専修自然科学紀要,7,7-26.

2. 鈴木利三・鵜飼香代・久米允子 1963 禅の医学的心理学的研究 -(1)坐禅による眼の機能の変動- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,346.
3. 秋重義治・中村昭之 1962 (5)調息・調心に関する心理学的研究 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,162.
中村昭之 1962 調息・調心に関する心理学的研究 -呼吸機能を中心とした人格の研究(その 1)- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,163.
山岡哲雄 1962 調息・調心に関する心理学的研究 - [精神統御に関する心理学的研究 2] - 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,164.
松本 蕃 1962 調息・調心に関する心理学的研究 -呼吸作用を中心とした自発的訓練法の心理学的研究(その 4)- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,165.
松本博基 1962 調息・調心に関する心理学的研究 -呼吸作用と情動との関係に関する心理学的研究(その 1)- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,166.
高山知明 1962 調息・調心に関する心理学的研究-呼吸型と性格との関係に関する心理学的研究(その 1)- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,167.
秋重義治 1963 禅の医学的心理学的研究(3) -調息調心に関する心理学的研究- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,348.
4. 神戸忠夫・佐藤幸治 1962 禅の医学的心理学的研究 -坐禅中の脳波と筋電図- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,289.
神戸忠夫・佐藤幸治 1963 禅の医学的心理学的研究-(4)接心, 見性体験と行動枠組の変容- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,349.
5. 伊沢秀而・笠松章・平井富雄 1962 禅の医学的心理学的研究(1) -坐禅の脳波的研究- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,33.
笠松章・平井富雄・伊沢秀而 1963 禅の医学的心理学的研究(2) -坐禅の脳波的研究(第 2 報)- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,347.
7. 高橋義人・高良武久・奥田裕洪・佐々木三男・山本卓三 1962 禅の医学的心理学的研究(2) -尿内生機物質を中心とした精神生理学的研究- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,34.
中江正太郎・高良武久・藤田千壽・甘楽昌子・飯島裕・佐藤春夫 1962 禅の医学的心理学的研究(その 7) -禅僧のロールシャッハテスト及自己意識による調査- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,288.
藤田千壽・中江正太郎・飯島裕・甘楽昌子・佐藤春夫 1963 禅の医学的心理学的研究(6) -接心前後の心理調査の結果- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,350.
藤田千壽・中江正太郎・飯島裕・甘楽昌子・佐藤春夫 1963 禅の医学的心理学的研究(7) -師家の人格とその禅について- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,351.
高良武久・藤田千壽・中江正太郎・飯島裕・甘楽昌子・佐藤春夫 1964 禅の心理学的研究 高良武久名誉教授就任記念論文集,157-175.
8. 恩田 彰 1962 禅に関する心理学的研究 東洋大学紀要,16, 99-109.
佐久間鼎・恩田彰 1962 禅の医学的心理学的研究(4) -坐禅の心理学的特徴- 日本心理学会第 26 回大会発表論文集,290.
佐久間鼎・滝沢武久・恩田彰・大谷宗司 1963 禅の医学的心理学的研究(8) -禅の科学的研究の意義- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,352.
佐久間鼎・滝沢武久・恩田彰・大谷宗司 1963 禅の医学的心理学的研究(9) -接心の経過の心理学的考察(参禅日誌の分析)- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,353.
佐久間鼎・滝沢武久・恩田彰・大谷宗司 1963 禅の医学的心理学的研究(10) -接心の経過の心理学的考察(質問紙の分析)- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,354.
佐久間鼎・大谷宗司・滝沢武久・恩田彰 1963 禅の医学的心理学的研究(11) -見性過程の心理学的考察- 日本心理学会第 27 回大会発表論文集,355.

これら 8 大学総合研究をきっかけに,九州大学秋重義治は,大系的な禅の心理学研究を継続した。それが,九州大学での「調息調心に関する心理学的研究」という副題を冠した一連の学会発表である。

その後、この一連の研究の副題は、秋重が駒沢大学に移ったあと、1970年の日本応用心理学会第37回での武井広平(駒沢大学)「調身・調息・調心に関する心理学的研究(94) 心坐禅に関する心理学的研究(3)-調身調息を中心にして-」より、「調身調息調心に関する心理学的研究」に改められた。この改名は、恐らく体系的に研究するうちに、禅は、調息調心にとどまらず、調身、調息、調心という3つの柱から成り立っているとの考えが明確になったためと推測される。

さらにその後、1978年日本心理学会第42回大会での中平浩介(駒沢大学)「禅療法と戒に関する心理学的研究-禅心理学的研究(218)-」より、「調身調息調心……」の副題は、「禅心理学的研究」と改められた。この改名は、恐らく、「調身調息調心……」よりは、「禅心理学」とした方が、内容もよくわかり、短くて呼びやすいということが、主たる理由ではないかと推測される。それともう一つ、禅の生理心理学的研究の行き詰まりが原因のひとつにあったのではないかと著者は憶測している。すなわち、1.悟得者の生理的指標を取ることが重要であるが、適当な被験者が得られない、2.他の方法で同様の生理的状态を起こした場合との区別が明確でない、3.同様な生理的指標が生じても、異なる心理的状态が生じる、4.個人差が大きい等の問題が挙げられる。この改名の少し前に、秋重は、「坐禅中の生理的指標については、ある程度わかったから、実際に悟った禅僧を連れてきて測定しろ」というような主旨の発言をしたと伝えられている。そして、実際に悟ったと明言できる禅僧を連れてくるのが極めて困難であることを自覚し、その後、「坐禅」姿勢の生理心理学的測定よりも、むしろ、「禅のものの見方による心理学的課題の見直し」が、重要な責務であると考えたため、更なる改名に踏み切ったと思われる(武田,1984)。それ故、「禅心理学」と命名したのは、秋重ということができるかも知れない。

この一連の研究発表は、現在でも継続されており、昨年度の日本心理学会第62回大会において、武田慎一が335番目の発表を記録している。

ちなみに、これら一連の研究は、いくつもの部門に分かれていた。例えば、九州東海大学武田慎一の「人格理論としての身体性に関する研究」、産業医科大学佐藤信茂等の「調息・バイオフィードバックによる心拍制御の研究」、駒沢大学篠原英壽、谷口泰富等の「瞑想に関する心理学的研究」、駒沢大学西田順造等の「生き方に関する心理学的研究」、駒沢大学茅原正の「定心と時間意識に関する心理学的研究」、駒沢大学高橋良博等の「仏教におけるイメージの研究」、駒沢大学松尾典義等の「姿勢に関する研究」などである。これらの研究のほとんどは、秋重の頭の中では、明確な大系化がなされていたようだが、それらの大系図が残されていないのは、大変残念なことである。秋重は、毎年年度始めに模造紙大の大きな紙に、大系的な分担図を作って、それに基づいて各々の研究の指導をしたと言われているが、大系図は残されておらず、わずかに秋重の研究をまとめた「秋重義治博士遺稿集 道元禅の大系」(1983)が出版されたに過ぎない。

また、応用面として、禅と臨床心理学との関連では、鈴木大拙・E.フロム等の「禅と精神分析」(1959)が著名であるが、秋重は、禅を臨床的に応用することにも関心を示し、日本カウンセリング学会の“相談学研究”「禅カウンセリングの特色(1)」(1969)や、“日本心理学会第35回大会発表論文集”「調身調息調心に関する心理学的研究(111) Respiration Training; Zen Therapy の提唱」(1971)を著し、禅療法(Zen Therapy)を提唱した。秋重(1971)によれば、「禅療法(Zen Therapy)は、Ⅰ)禅カウンセリング、Ⅱ)禅的呼吸療法(Respiration Training; Respiration Therapy)、Ⅲ)禅的呼吸療法と禅カウンセリングまたはその他の精神療法とを併用または融合した場合、の三者を包摂したものである」という。

中でも、秋重は呼吸に重きを置いていた節があり、「東西の呼吸法を比較検討した結果、そこに四つの基本的要因があることを選定し、これを難易の順に配列した総合呼吸訓練法を創案した」と述べ、駒沢総合呼吸訓練法 Komazawa Respiration-Training(KRT)という呼吸法を創案している(1970)。

その他、秋重は、「禅の心理学的研究」を海外に広めることにも余念がなかった。秋重等

が作成した英文による「禅の心理学的研究」をまとめた著作は以下の通りである。

- Akishige,Y(Ed.) 1968 Psychological Studies on ZEN. *Bulletin of Faculty of Kyushu University*.
Akishige,Y(Ed.) 1977 Psychology of Zen I. Komazawa University Maruzen
Akishige,Y(Ed.) 1977 Psychology of Zen II. Komazawa University Maruzen
Akishige,Y(Ed.) 1977 Psychological Studies on ZEN. *Bulletin of the Zen Institute of Komazawa University*.

秋重は、駒沢大学心理学研究室の総力を挙げて、禅の心理学的研究に努めた。それは、一連の学会発表や、国外普及以外に、駒沢大学での大学院や学部での心理学担当科目者の人選にも現れていた。前述のごとく、秋重着任前の駒沢大学には、入谷智定が心理学担当教員としていた。そして、秋重の着任後、佐久間鼎(心理学)、杉靖三郎(精神生理学)、笠成章(精神医学)、平井富雄(心理学)、阿久津邦男(精神病理学)、千葉胤成(心理学)といった、禅心理学研究のそうそうたる顔ぶれがの専任、非常勤教員として揃った。

只管打坐を標榜する道元禅(曹洞禅)の研究を大系化した秋重に対して、京都大学佐藤幸治は、主として公案を用いる臨済禅を中心とした心理学的研究に努めた。佐藤は、その成果を世界に公表すべく、*PSYCHOLOGIA AN INTERNATIONAL JOURNAL OF PSYCHOLOGY IN THE ORIENT* (プシコロギア・東洋国際心理学誌-)を1957年に創刊した。プシコロギアは、1998年12月までにVOL.41 No.4を発行している。これは、国外でも非常によく知られた、日本で出版されている英文誌である。

その他、佐藤は前述の通り、国内で最も知られている日本心理学会機関誌のひとつ、“心理学研究”に「禅と心理学」(1959)を載せ、国内にも禅の心理学的研究を知らしめた。また、著作『心理禅』(1961)の中で、「坐禅の十功德」というものを述べ、従来タブー視されていた感のある、禅の功德(効果)について論じた。さらに、佐藤は、上述の秋重同様、禅を心理療法に活かすことにも関心を寄せ、『禅的療法・内観法』(1972)を著した。

その他、以下のように、“現代のエスプリ”、“大法輪”といった大衆誌に「禅の心理学的研究」の関連記事が掲載されたことも普及に役立った。

佐藤幸治 1967「坐禅の脳波(学的研究) 現代のエスプリ 特集:禅への招待,5.

佐藤幸治 1984「禅と内観」現代のエスプリ 特集:瞑想の精神療法,202,168-172.

谷口泰富・軽部幸浩 1993「瞑想法 リラクゼーション法」現代のエスプリ 特集:リラクゼーション 311,92-101.

春木豊・石川利江 1993「呼吸法 リラクゼーション法」現代のエスプリ 特集:リラクゼーション,311,102-110.

杉靖三郎 1979 坐禅を科学する 特集:仏教とヨーガ 大法輪,46,5.

玉城康四郎・平井富雄 1983 対談:精神医学と瞑想 大法輪,50,9.

大法輪閣編 1997 特集:坐禅・瞑想・ヨーガ-自己変革への道- 大法輪,54,3.

Ⅲ 禅心理学の時代区分

以上、禅心理学の成立を簡単に振り返ったが、総括して、禅の心理学的研究は、大まかに以下の4つの時期に区分することができるだろう。

- 1.「禅の心理」学期：1901年井上円了や1905年元良勇次郎らの時期から、1940年代まで。
- 2.禅と心理学期：1950年代の孵卵期。
- 3.調身・調息・調心の心理学的研究期：1960年代の笠松・平井や8大学総合研究から、秋重が「禅心理学」を提唱する1977年まで。
- 4.禅心理学期：1978年から、現在まで。

この区分によれば、現在は、第4期に入っている訳だが、実際には、禅心理学を唱えた直後の1979年に秋重は亡くなり、禅の心理学的研究を押し進めた各大学の主要人物亡きあとの後継者等が、大規模な継続的な共同研究を存続することができなかった。これは、明確な数量的データを提供し、「禅の心理」学から、「禅」の心理学へと発展させた生理心理学的的方法論の行き詰まりと無関係ではないだろう。そのため、佐藤(1959)の掲げた6つの研究課題や、秋重の「調身・調息・調心……」から、「禅心理学研究」への方向転換等の大きな研究指針があったにも関わらず、現在、禅心理学研究は、個人個人で細々と続けられているに過ぎない。それらの研究者間の唯一のネットワークとして、「東洋的行法研究会」(「東方医学・心理学研究会に改名予定)がある。この研究会では、日本心理学会において、1998年までに過去連続10回のシンポジウムやワークショップを行っている。また、約2年毎に国際シンポジウムを開催し、各国の東洋思想・東洋的行法を研究する心理学者との連絡・研究発表等を行っている。近年、体育学の分野では、全国大学体育連合主催の「東洋養生法研修会」が、また、医学の分野では、日本代替・相補・伝統医療連合会議という団体ができており、長い過去と短い歴史を持った「禅心理学」分野の更なる発展や、「仏教心理学」、「東洋心理学」等、新しい分野の開拓が期待される。

注1) 文部省科学研究費による8大学(京都大学の2つの研究室がこの総合研究に参加しているので、正確には7大学と1研究室であるが、通常8大学と呼ばれている)の大学名、代表者名、研究課題は以下の通りである)

1961年総合研究 於:静岡県袋井市可睡斎(曹洞宗;橋本恵光老師)

- | | | |
|-------------|----------|--------------------------|
| 1.東京教育大学 | (杉 靖三郎) | 坐禅の筋電図学的研究 |
| 2.名古屋大学 | (高木 健太郎) | 坐禅時の自律神経機能に関する研究 |
| 3.九州大学 | (秋重 義治) | 調息の心理学的研究 |
| 4.京都大学 | (佐藤 幸治) | 調心の心理学的研究 |
| 5.東京大学 | (笠松 章) | 坐禅の脳波的研究 |
| 6.京都大学 | (片岡 仁志) | 非指示的指導方法と禅の指導方法との比較的研究 |
| 7.東京慈恵会医科大学 | (高良 武久) | 坐禅体験と森田の臥褥体験との比較研究 |
| 8.東洋大学 | (佐久間 鼎) | 創造活動と禅的体験における創造過程の心理学的研究 |

1962年総合研究 於:東京都浄牧院(曹洞宗;石黒法竜老師)

- | | | |
|-------------|----------|--|
| 1.東京教育大学 | (杉 靖三郎) | 坐禅の筋電図学的研究ならびに呼吸型に関する研究 |
| 2.名古屋大学 | (高木 健太郎) | 坐禅時の自律神経機能に関する研究ならびに坐禅時の眼機能及び見性の生理心理学的研究 |
| 3.九州大学 | (秋重 義治) | 調息の心理学的研究 |
| 4.京都大学 | (佐藤 幸治) | 調心の心理学的研究 |
| 5.東京大学 | (笠松 章) | 坐禅の脳波的研究 |
| 6.京都大学 | (片岡 仁志) | 非指示的指導方法と禅の指導方法との比較研究 |
| 7.東京慈恵会医科大学 | (高良 武久) | 坐禅体験と森田の臥褥体験との比較研究 |
| 8.東洋大学 | (佐久間 鼎) | 創造活動と禅的体験における創造過程の心理学的研究 |

注2) 8大学のうち、6の京都大学片岡仁志等によって公表された研究論文は発見できなかった。

引用文献

- Akishige, Y. (Ed.) 1968 Psychological Studies on ZEN. *Bulletin of Faculty of Kyushu University*.
 秋重義治 1969 禅カウンセリングの特色(1) 相談学研究, **2**, 36-37.
 秋重義治編 1970 呼吸療法・呼吸訓練法の理論と実修の研修会の手引 駒沢大学文学部心理学研究室呼吸療法・呼吸訓練法研究会
 秋重義治 1971 調身調息調心に関する心理学的研究(111) Respiration Training; Zen Therapy の提唱 日本心理学会第35回大会発表論文集, 733-734.
 秋重義治 1973 禅と心理学 愛知学院禅研究所 禅研究所紀要, **3**, 123-132.
 Akishige, Y. (Ed.) 1977 Psychology of Zen I. Komazawa University Maruzen
 Akishige, Y. (Ed.) 1977 Psychology of Zen II. Komazawa University Maruzen

Akishige, Y. (Ed.) 1977 Psychological Studies on ZEN. *Bulletin of the Zen Institute of Komazawa University*.

秋重義治博士遺稿集刊行会(編) 1983 秋重義治博士遺稿集 道元禪の大系 八千代出版

安宅孝治 1934 禪の心理 実験心理学研究, 1, 67-74.

安宅孝治 1953 禪の心理 -第三報告 哲学年報, 14, 442-458.

安宅孝治 1957 禪の悟道について 九州大学テオリア, 1, 119-127.

安宅孝治 1961 禪についての一つの見解 主としてその心理的説明 九州大学テオリア, 5, 35-55.

安宅孝治 1964 禪における「心」の意味について 九州大学テオリア, 8, 77-88.

安宅孝治 1965 禪において根源的なものを悟ることの心理的意義 九州大学テオリア, 9, 31-36.

千葉胤成 1928 固有意識について 日本心理学会第1回大会報告, 11-16.

千葉胤成 1931 固有意識としての意志 日本心理学会第3回大会報告, 3, 19-22.

千葉胤成 1957 意識性の問題 -唯識とブレンターノ- 日本心理学会第21回大会発表論文抄録, 1.

平井富雄 1960 坐禪の脳波的研究 -集中性緊張解放による脳波変化 精神神経学雑誌, 62, 76-105.

井上円了 1901 甬水論集 博文館

入谷智定 1920a 禪者の自性及び獲信の研究 心理研究, 101, 529-544.

入谷智定 1920b 禪の心理的研究 東京 心理学研究会出版部

神戸忠夫 1962 坐禪の心理学的研究 京都府立大学学術報告(人文), 14, 1-9.

駒沢大学文学部社会学研究室 1982 社会学科33年のあゆみ -大学院人文科学研究科社会学専攻30年- 三鈴印刷

黒田 亮 1933 勘の研究 岩波書店(改訂版 1980 講談社)

黒田 亮 1935 禪の社会心理学的考察 宗教研究, 12(5), 1-16.

黒田 亮 1937 禪の心理学 禪の講座第1巻 禪の概要, 57-112.

黒田 亮 1941 禪の心理 禪 第1巻 雄山閣, 1-52.

黒田 亮 1944 唯識心理学 小山書店

元良勇次郎 蛸瀬彦蔵(訳) 1905 東洋哲学に於ける自我の観念 哲学雑誌, 221, 222, 223, 附録, 1-40.

中平浩介 1978 禅療法と戒に関する心理学的研究 -禅心理学的研究(218)- 日本心理学会第42回大会発表論文集, 1006-1007.

日本学術振興会 1962 禪の医学的心理学的研究 昭和36年度文部省科学研究費による研究報告集録人文編, 6-7.

日本学術振興会 1963 禪の医学的心理学的研究 昭和37年度文部省科学研究費による研究報告集録人文編, 11-13.

恩田彰 1962 禪に関する心理学的研究 東洋大学紀要, 16, 99-109.

佐久間鼎 1948 神秘的体験の科学 光の書房

佐藤幸治 1944 氣の人間技術学 哲学研究, 29(1), 26-54.

佐藤幸治 1959 禪と心理学 心理学研究, 30(4), 44-53.

佐藤幸治 1961 心理禪 創元社

佐藤幸治 1967 坐禪の脳波学的研究 現代のエスプリ 禪への招待, 5, 25.

佐藤幸治(編) 1972 禪的療法・内観法 文光堂

Suzuki, D.T., Fromm, E., De Martino, R. 1960 Zen Buddhism and Psychoanalysis. Ruskin House London. (鈴木大拙・E.フロム・R.デマルティエーノ著 小堀宗柏・佐藤幸治・豊村左和・阿部正雄訳 1960 禪と精神分析 東京創元社)

武田慎一 1984 心理論理学の可能性に関する一考察 九州東海大学紀要 工学部, 11, 101-106.

武田慎一 1998 人格理論としての身体性に関する研究(21) -禅心理学的研究(335)- 日本心理学会第62回大会発表論文集, 1.

武井広平 1970 調身・調息・調心に関する心理学的研究(94) 坐禪に関する心理学的研究(3) -調身調息を中心にして- 日本応用心理学会第37回大会発表論文集, 75.

(8 大学総合研究を公表した文献、並びに、“現代のエスプリ”、“大法輪”については文中にリストを付したのでここには掲げなかった)